







# 海洋プラスチックごみ対策アクションプラン概要



OG20議長国として、世界全体で連携して効果的に対策が促進されるよう取り組む。  
**○プラスチックごみの海への流出をいかに抑えるか。** 経済活動を制約するのではなく、**廃棄物処理制度による回収・流出防止、イノベーションによる代替素材への転換、途上国支援等。**

## 対策分野 主な対策・取組

<p>① 廃棄物回収・適正処理</p>	<p>➢ アジア諸国の廃棄物禁輸措置に対応し、<b>国内の廃プラスチック処理・リサイクル施設の整備</b>を支援</p>	 <p>倉庫に保管された使用済み養殖用フロート</p>
<p>② ポイ捨て、流出防止</p>	<p>➢ 清涼飲料団体による<b>専用リサイクルボックスの設置</b>                  ➢ <b>漁具の流出防止</b>のため、<b>漁業者による適正管理</b>を要請</p>	 <p>散乱ごみの回収活動 (全国川ごみネットワーク提供)</p>
<p>③ 陸域でのごみ回収</p>	<p>➢ 「<b>海ごみゼロウィーク</b>」(5/30~6/8前後)を2019年から開始し、<b>全国一斉清掃アクション</b>を展開                  (日本財団と連携。2021年までの3年間で240万人の参加を目指す。)</p>	
<p>④ 流出ごみの回収</p>	<p>➢ 自治体による<b>海岸漂着物等の回収・処理を支援</b>                  ➢ <b>漁業者等が取り組む海洋ごみの回収・処理を支援</b>                  (漁業者が操業時等に回収した海洋ごみを、補助金を活用して市町村の施設などで処理)</p>	 <p>漁業者による回収活動</p>
<p>⑤ イノベーション</p>	<p>➢ <b>ロードマップ</b>に基づく<b>技術開発、代替素材の生産設備整備・技術実証</b>を支援                  (例：カネカ社が2025年までに海洋生分解性プラスチックの生産能力を100倍に増設計画)</p>	 <p>生分解性プラスチック製の袋</p>
<p>⑥ 国際貢献・実態把握</p>	<p>➢ <b>ASEANのナレッジセンター設立など廃棄物管理に関する能力構築を支援</b>                  ➢ モニタリング手法の国際調和の推進、漂着物・浮遊プラスチック類の調査等</p>	 <p>海洋生分解性ストロー</p> <p>ミャンマーにおける日本の支援による廃棄物発電施設</p> <p>バングラデシュではごみ収集率が44%から80%に改善 (JICA提供)</p>

我が国のベストプラクティス(経験知見・技術)を国際的に展開しつつ「**新たな汚染を生み出さない世界**」を目指す